

ハラールという戦略上の選択肢 حلال

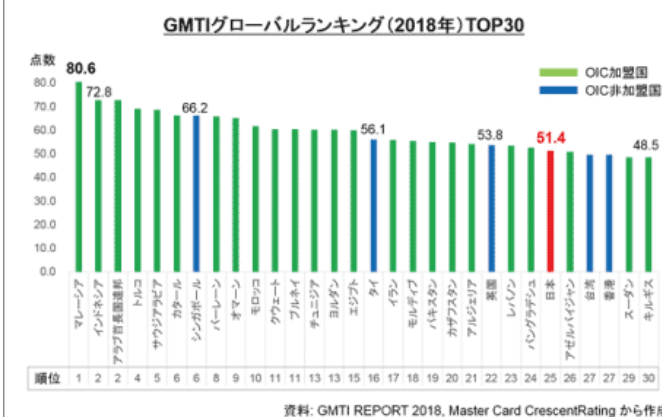
データで読み解く訪日ムスリム客の動向

第28回

先月発表されたGMT I (グローバル・ムスリムトラベル・インデックス※) 2018から、前回はイスラム協力機構(OIC)非加盟国のランキングを中心に、日本に対する評価を考察しました。今回はOIC加盟国も含めたグローバルランキングから、日本がさらに上位を狙うには何が必要なのかを考察します。果たして日本は世界有数のムスリム(イスラム教徒)フレンドリーデスティネーションになれるのでしょうか。

不動の首位、マレーシア

グローバルランキング25位の日本はタイと英国との差を縮めており、トップ20入りが見えてきている



上の図はGMT Iのグローバルランキングを示しています。OIC非加盟国のランキングで今年4位に付けた日本ですが、グローバルでは25位にとどまっています。昨年は非加盟国で6位、グローバルで33位でしたので、確かに今年もランクアップはしましたが、世界全体ではまだ十分に評価されているとはいえません。もっとも、グローバルのトップ20に入っているOIC非加盟国はシンガポールとタイのみですので、ハラール対応を始めてまだ数年の日本では無理のないことか

もしれません。

上の図からはマレーシアが群を抜いてポイントが高いことが確認できます。過去3年間、2位との差はそれぞれ7.2ポイント、5.6ポイント、7.8ポイントと大きく開いていますので、しばらく首位の座は安泰といえそうです。シンガポールもグローバルランキングでは2016年が8位、17年が10位、18年が7位と、トップ10をキープしています。ただマレーシアの背中とは相当遠く、簡単に追い付けそうにありません。

マレーシアは多民族国家でありながら、イスラム教を国教と定めています。宗教の戒律であるハラールを認証規格化して振興していることはご存じの通りですが、国策としているツーリズムにおいてもハラールは大きな存在感を示しています。GMT Iのランキング上位各国ですらお手本にしているマレーシアのホスピタリティーサービスとは、どのようなものなのでしょうか。

変わるラマダンの過ごし方

近年マレーシアは特に中東諸国からの旅行客誘致に注力しており、イスラムの戒律に沿ったさまざまなサービスを展開しています。その成果を目に見えて確認できるのが、今年15日から始まったラマダン、そしてその後のイード休暇(ハリラヤ・プアサ)です。ラマダンはイスラム暦9月に行われる宗教行事で、一般的には断食で知られています。

4週間にわたるラマダン期間中は、家族や友人と共に日中は断食し、日没後は食事を取り、そして神に祈りを捧げる神聖な期間とされています。従来この期間中は海外への渡航を控えるムスリムが多かったのですが、昨今は家族ぐるみで海外に出掛けるムスリムが増えています。

そうした旅行客を積極的に呼び込んでいるのがマレーシアです。同じイスラム国でも、中東とは異なる雰

囲気の宗教行事やイフタール（日没後の食事）を開催し、中東からの旅行客を魅了しています。ホテルにおいても、日中にノンムスリム客が食事をしているのを目にすることがないよう配慮したり、客室内の食品をあらかじめ撤去したり、ザカート（喜捨、ムスリムの義務の一つ）のイベントを開催したり、著名な宗教家のセミナーを開いたり、イスラミックサービスといわれる宗教に配慮したサービスが好評を得ています。

日本に求められるのは配慮

こうしたサービスに、特別な投資は必要ありません。いずれも基礎知識とちょっとした配慮で対応できるものばかりです。現にシンガポール、タイ、そして台湾でもイスラミックサービスを提供するホテルが出現しています。例えばスポーツジムやプールは男女別になっており、館内に動物をイメージさせるものは置かず、アルコールを提供しないバーカウンターまで用意されています。

果たしてそこまで必要かという議論はさておき、日本に求められているのは、そうしたニーズに対する配慮です。日本で今日お迎えする旅行客は、昨日海外でイスラミックサービスを受けているかもしれません。彼らにとって好ましくないことは極力排除するという姿勢が必要です。

ハラールの食事とお祈りスペースがようやく広まり

始めたばかりの日本では、ラマダン期間中はムスリム旅行客の訪日がぱったり止まります。断食の期間だから仕方ないと割り切るか、1年間で最も消費が高まるこの期間を商機とみるか。ラマダン期間中でも訪日客が増えるようになると、日本はグローバルランキングの上位に名を連ねることができるでしょう。

※Master Card CreascentRating, Global Muslim Travel Index 2018

<筆者紹介>

横山真也

ヨコヤマ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
フードダイバーシティ株式会社 共同創業者

2014年に「世界初の日本ハラール専門ポータルサイト」Halal Media Japan とハラール・ベジタリアンレストラン検索サイト・アプリ Halal Gourmet Japan を開設。14年と15年に日本最大のハラールトレードショーである Japan Halal Expo、16年は Halal Expo Japan にて東アジア初のモディストファッションショー Tokyo Modest Fashion Show を主催。17年は世界初のムスリムロリータコレクション Kawaii Hijabi Collection とファッションスクール生コンペ Generation M Design Award を主催した。「MasterCard CrescentRating -Japan Muslim Travel Index 2017」では共同編集長を務めた。趣味は矢沢永吉で、ライブ参加は通算132回。

NNAアジアビジネスデータバンク 2018年版

現地社員給与動向、基礎統計データでビジネスを強力サポート!

好評発売中

●対象国・地域

中国、香港、台湾、韓国、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、インド
※ラオス、カンボジア、ブルネイは基礎統計のみ

●グラフ・表で各データを見やすく表示

●資料作成に役立つダウンロード機能付き

CSV形式のファイルを簡単にダウンロードできます。資料作成にお役立てください。

contents

給与動向

▶ NNA独自調査による現地社員の給与、昇給率、賞与などの情報を提供

基礎統計

▶ GDP、CPIなど約100項目のマクロデータを国別、年推移で掲載
▶ 最大9年分のデータ

総回答社数
2200
社強